

## 部長挨拶

早稲田大学バドミントン部部长

加藤 勇



平成16年、早慶バドミントン定期戦も52回目となりました。早慶のOBの皆様には、いつも変わらぬご支援大変感謝しております。

今年は記録的な暑署となり、体調をくずされた方もおられると思いますが、選手諸君は夏休みの間に合宿、練習を通して、おおきな収穫を上げたことと思います。

いかなる道を進むとしても、その道を極めることは大変なことです。道の先には必ず壁があります。この壁を乗り越えようとさらに壁が立ちます。この壁をどうにかして乗り越えて、先に進まなければなりません。そして勝利に喜び、また敗北に泣くこともあります。

大学4年間を通して、さまざまな壁を乗り越え進み続けて下さい。鍛錬に修練を重ねて、より多くの勝利に欢喜しましょう。これは、諸君が社会に出て各々の人生を進んで行く上で、必ず役に立ちます。

## 会長挨拶

稲門バドミントンクラブ会長

栗田 裕巨



今年4月、稲門バドミントンクラブの会長に指名されました。昭和33年卒の栗田でございます。元会長の津田先輩、前会長の菊地先輩の後を受け、3代目になるわけですが、両先輩は我が部の創立者であると共に、長年に亘り後輩の指導に当たられ、部の発展に偉大な功績を残されました。

両先輩には比するべくもない若輩でございますが、微力ながら精一杯務めさせていただき所存でございますので、早慶両校のOB・OG・部員の皆様におかれましては、宜しくご指導ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

私が初めて早慶定期戦に出場させていただいたのは、昭和30年の第3回でしたが、当時慶応義塾には、日本のトップクラスの有力選手が揃っており、早稲田は全く歯が立ちませんでした。以来半世紀、今年も両校選手により熱戦が繰り広げられると思います。後に悔いを残さぬよう全力を出し切ってプレーされることを期待します。

## 部長挨拶

## 慶應義塾体育会バドミントン部部长 関場 武



例年に比べやや遅い日程となりましたが、この10月31日に慶應義塾大学日吉キャンパスの記念館で、第52回目の早慶バドミントン定期戦が行われることになりました。我が日吉の記念館は、慶應義塾の創立100年を記念して建てられたもので、かれこれ50年近い歴史を刻んでいます。それゆえ、それは無いと考へて来ましたが、バドミントン競技を行う場として支障は無いと考へられまます。各種の競技の大会や体育の授業・イベント等、青春真っ只中のその姿を見守って来てくれた施設の中で、創部50年、60年を超える伝統ある両校のプレイヤー達が一歩を十分発揮して、シアトルを追えるということ、実に慶賀すべきことであり幸せなことでありまます。我等が記念館に感謝すると共に、これまでの半世紀余にわたる定期戦を支えて来て下さった皆様の方々に、あつく御礼を申し上げます。ありがとうございました。そして、今後ともよろしくご支援・ご協力の程をお願い申し上げます。

さて、この夏は大変な猛暑でした。しかし、それをものともせずに、両校の学生諸君は練習や実戦に動んで来たとおしいまます。運めのため、トレーニングにかけられる時間も十分確保でき、試合経験を積み重ねられたとは思いますが、選手諸君はどうかその成果をこの伝統ある定期戦で十二分に発揮し、諸君の先輩達がそうであったように、臆することなく手を抜くことも無く、正々堂々と戦いきつてほしいと思ひまます。そして、コートに立つ人も立たない人も、裏方を務める慶應義塾女子高等学校や慶應義塾高等学校の生徒諸君も、また、当日応援に駆けつけて下さるOBの方々も、共にバドミントンが出来るとの喜び、一緒に頑張って定期戦を盛り上げて行つて下さい。よろしくお願ひ申し上げます。

私事になりますが、小生は公認審判員を務めております関係で、ここ数年早稲田大学さんの日体大健志台でのリーグ戦を拝見したり、たまたま早稲田さんの試合の主審に当たったりしております。残りの秋、女子は1部で見事優勝されましたし、男子も強豪揃いの1部で懸命に戦っております。残念ながら我が慶應義塾は、男子は3部復帰ならず、女子も同好会からの助っ人をお願いして、辛くも入れ替え戦で3部残留という状況にあります。しかし男女とも、伝統の一戦の名を汚さぬよう研鑽を積み、試合ではスタフアップ共々全力を尽くす所存であります。早稲田大学の皆様、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

## 会長挨拶



## 三田バドミントンクラブ会長 小杉良雄

早いもので、また一年が経ち第52回の栄えある早慶定期戦を迎えることになりました。皆さんにおかれましては恙なく元気に参加して頂けるものと思っております。今年は昨年と違い南からの高湿度の熱風で30度を超える日が40日も続くという酷暑の新記録に襲われました。一方西アテネからは日本のアスリート達のメダルラッシュの報で爽やかな感動を送ってもらいました。そして我々にとつては格別の早慶戦を、遅ればせながら秋深まる中、日吉の丘で迎えることになりました。

既に高校戦は前以て同じく日吉で行われ、9対2で塾が勝利したとの嬉しいニュースを聞いております。さて肝心の大学戦ですが、早稲田さんは男女一部リーグで活躍されております。我が慶應は男女共4～3部リーグに低迷しています。「文武両道」を目指すコンセントの下、一定の限界は感じつつも学校側、現役、OB一体となり危機感を持って再建に取り組んでいこうとしています。従い現在は両校間のバドミントンの力に差がありますが、全ての面で競い合う好敵手としてそれ相応の好ゲームを当日は期待したいと思ひまます。特に慶應の諸君はハイレベルにある早稲田の諸君に対し一戦でも多く勝ち取る・頑張ることがとても意味あることだと思われまます。又バドミントンのお好きな両校OBの皆様、どうぞ皆我無く微笑ましいプレーを随所にお見せ下さい。両校それぞれの健闘を心より祈っております。

最後に早慶両校の関係者の皆さん、特に早稲田のOBの皆さん、本早慶戦への変わらぬご声援いつもありがとうございます。

今年も早慶両校の現役、OBが一同に会して競い合う早慶戦がやってきました。この伝統ある定期戦も今回で第52回を迎えることになりました。これもひとえに諸先輩方の努力と熱意の賜物と感謝申し上げます。また、今年も監督として戦えることに感謝するとともに大変光栄であり嬉しく思います。

今年の我が部は関東学生春季リーグ戦において男子は5位に終わりましたが、部員一同が一丸となり戦った結果であり、今後に必ず繋がるものと信じております。女子においては1部入りして3年目になりますが、部員も7名と増え、混戦の中で幸運にも2位という結果は着実に力を付けてきてきた証拠と思っております。男女とも、秋のシーズンには必ず良い結果を残せると信じておりますので期待してください。(女子においては9月始め、札幌での東日本学生選手権団体で優勝)

今年の定期戦も全員で一丸となり慶応に臨み、是非勝利をものにしたいと思えます。しかし、いつも独特の雰囲気の中で行われた早慶戦は過去いくつもの名勝負が実力を超越したところで勝敗がついて来ました。選手諸君には今年も気合い負けず、日頃の練習の成果を充分に発揮し早稲田らしく悔いのないプレイを見せてほしいと思います。特に楨野、藤巻、川合、長戸、橋本には学生最後の定期戦として、後輩達の見本となるよう全力をつくして必ず勝利してもらいたい。そして、良き思い出をつくってください。

最後に、今年も慶応の現役、OB諸氏と共に良い試合を展開し、より両校の友好が深まることを望みます。

# WASEDA KEIO

## 祝 早慶定期戦

各種記念ペナント調製

マーク・ワッペン・旗・腕章

# オギワラ

〒160 東京都新宿区西早稲田 1-8-24

早大東門前大隈通り

TEL 03 (3202) 7 8 4 6

FAX 03 (5273) 8 2 8 5

今年はオリンピッククイヤー。この原稿を書いている今、近代オリンピック発祥の地ギリシャで開催されているアテネオリンピックが、まもなく幕をおろそうとしている。アテネを舞台に日本の若者達は、過去に日本が出場したどのオリンピックよりも沢山のメダルを胸にした。柔ちゃんも“田村でも金、谷でも金”を獲得し、北島は“気持ち良い〜!”と吼えた。一感激！

思えばこの夏は、彼らの活躍に喜び、驚き、興奮し、テレビに釘付けとなった。おかげでこの原稿が思うに捗らず悶々とする日々でもあった。もちろんアテネではバドミントンも行われた。バドミントンがオリンピックの正式種目になったのは、1992年バルセロナ大会から。きつと正式種目になるまでに、「バドミントン」をメジャーなスポーツにしたい! という熱い気持ちを持った沢山の方々が大変な努力をされたことと思う。一感謝！

ちよつと話はそれるが、以前偶然見たテレビのドキュメンタリー番組で、「オリンピック種目に新たに追加しようという動きに反対している」競技団体があるという。それは、“剣道”。反対の理由は明快。「剣道は勝敗を決するためのスポーツではない。精神鍛錬のためのものである。」と。「勝って反省、負けて感謝。」勝ったときは驕ることなく反省すべきを反省し、負けたときは自分の未熟さを教えてくれた相手に感謝せよ。まさに剣の道。そして人の道。本当にその競技を愛する人達はこういう人達なのかもしれない。一感動！

さて、今日は第52回早慶定期戦。アテネオリンピックのバドミントン競技に出場選手を送り出している宿敵早稲田との対戦。敵に不足なし。リーグ戦男女共1部に君臨する早稲田。それに対する我々は、今春リーグ戦終了時点で男子4部、女子3部。そのレベルの差は如何ともし難いものがあることは、誰の目にも明らかか?一感服?

しかし、試合に懸ける意気込み、ここまで打ち込んだ練習量、研ぎ澄まされた集中力、吉岡主将率い一体となったチーム力、そして、何よりバドを愛する気持ちでは、早稲田の諸君に決して引けを取ってはいまい。監督としては些かな謹慎かもしれないが、今日は我慶應の戦いっぷりをじっくり楽しみませてもらおうとしよう。一感懐。

# KEIO WASEDA

## 近藤 繁

第52回早慶バドミントン定期戦の開催を心よりお慶び申し上げます。  
今年の早慶戦は、私の現役最後の早慶戦（第17回、昭和44年）から数えて35年目を迎えます。福  
島君（一年生）と当たりました。三年は慶応、佐藤君と公式戦の初対戦で、またまた宿敵佐藤君  
と戦いました。懐かしく昨日の出来事のように思い出します。早慶両校の諸先輩、先  
生、同期、後輩、皆様のプレイをしていている姿もとても懐かしく思います。OB戦を観戦する  
とタイムスリップの感じがとらわれるのは私だけでしょうか。この年一回の定期戦で毎年  
誰に会えるかがとても楽しみです。昨今は早慶定期戦の開催日が一定しておりませんが、当時は  
大体9月初旬であつたように記憶します。その為に早慶定期戦は、後期シーズンの出発点で、大  
変大事な試合でした。早慶戦に勝利し、後期シーズンのベストスタートを切ることで、何よりも  
重要に思えます。後期シーズンに向けてチームの士気を高め、気力を充実する為に、何として  
も慶応に勝つて秋季リーグ三位死守、インカレ決勝進出ができました。部員全員が練習に  
専念し、結果が、少しは実を結び、上昇気流のなかで翌年の杉本主将にバトンタッチできたのは、  
あの早慶戦のスタートダッシュから始まったと今でも思っています。さあ、それほど重要な早慶  
戦に出場される現役の皆様、OB・OGの皆様、今日試合をステップにして、全日本に、世界に  
羽ばたいて下さい。皆様のご健闘を祈ります。

最後に、第52回早慶バドミントン定期戦の成功と早慶両校のパドミントン部のますますの発展  
の方々にお礼を申し上げます。また本定期戦の成功と早慶両校のバドミントン部のますますの発展  
を祈念いたします。

WASEDA

早慶戦  
に  
寄せて

KEIO

早稲田大学 法学部 平成15年卒

## 高松弘樹

早慶バドミントン定期戦が第52回大会を迎えられたことを心よりお喜び申し上げます。  
部を引退してまだ一年弱ですが、この様に、早慶戦に寄稿することになり、また、あの熱戦がま  
ぶたの下に蘇ってきます。

初めて早慶戦に出場した3年の秋には、試合に出場できる喜びで眠れなかったことを覚えてお  
ります。普段とは違う両校の維持をかけた独特の試合の雰囲気。前評判として接戦が予想され  
いたのですが、鈴木先輩のおかげでファイナルセットの末に勝利。4年の秋も下級生の頑  
張りによって勝利。試合後に勝利の美酒を飲むことが出来て、非常にうれしく思いました。

部活で厳しい練習や試合と一緒に経験してきた仲間は一生の財産になると思う。試合に出場す  
る者も、出場しない者も、同じレベルで喜びや悔しさを感じられるよう部員一丸となって試合に  
臨んでください。

最後になりますが、今大会を運営なさる方々に感謝し、素晴らしい大会になるようにご健闘を  
お祈り申し上げます。

## 鈴木 明

第52回早慶バドミントン定期戦開催おめでとうございます。

52回と聞くともう卒業から40年以上上たっしてしまっているのだなと感慨深いものがあります。振り返ってみると、我々が現役のときの大学男子は慶應が圧倒的に強く、私が主将の時は13対2で勝ったと記憶しています。その中の1敗は1年後輩の長谷川君が吉良君との試合中に負傷し続行不可能になった1敗でした。それまでの対戦成績も11勝零敗。ただ翌年は油断したのか7対8で破れ、それ以来平成に入って2勝したものの、早稲田との対戦成績は完全に逆転しています。しかしながら、現在早稲田との力の差は歴然としているもの、最近日吉へ行く機会が多くなってよく見ていると、吉岡主将を中心として自主的によくまとまり、またそれを五月女監督のもとに若手OBが助けるという、学生スポーツ本来の姿が見られ大変喜ばしいことです。慶應は今春4部に落ちたもののリーグ戦を見るかぎり力の差はそれほどなく、他校に引けを取ることはないと感じています。体育会に属する運動部は学校を代表して勝つという常に常に大きな命題がありますが、栄枯盛衰は時の習い、必ず慶應がまた復活すると信じています。

この早慶バドミントン定期戦は、高校からOBまでと他校には例の少ない誇りある定期戦です。それが50回以上継続しているという伝統もまた誇りです。両校が切磋琢磨してまします他校の模範となりこの誇り、伝統を守っていき、また新しい伝統を創っていくことを切に願っています。

“古い革袋に新しい酒を”

KEIO

慶早戦  
に  
寄せて

WASEDA

慶應義塾大学 経済学部 昭和63年卒 (株式会社リクルート) 学びデビューカンバン(一勤務)

## 岩田 好造

アテネ五輪を見ながら「勝った人」だけでなく「負けた人」「支えた人」たちの人間模様を心に熱くしたのには私だけでなく皆さんそうだったのではないだろうか。メンタルな弱さで検舞台から落ちながら、教え子の一途さにはだされ、精密さを求められる弦製作を教え子に預け、これを理由にするようにや所詮勝てない腹を括り20年ぶりに銀を取った山本選手、死ぬほど練習して内容も勝っていたのに銀に泣いたレスリングの伊調千春選手に「努力が稼いだ銀、おめでとう」と迫ったレポーター……。「勝つため」「強くなるため」と、もがいた体育会出身者には思えない共通のDNAが存在する気がします。

大学時代、私のバドゲームは慶早戦で見市君とフアナルセツティングで負けた試合だ。敗戦後のレセプションで彼に教えられたバックハンド理論は今でも脳裏に焼きついている。五輪でも勝者は一握りだが、我々の世界を振り返っても「体育会時代の勝負」にしろ「ビジネスシーンの勝負」にしろ、負けるケースが圧倒的に多い。そして、人はそんな負けに遭遇した際、大きく分けて2つのタイプに分かれるような気がする。一方は、上手に負けることを回避する人、他方、一つひとつを肥やしにしてチャレンجزし続ける人。後者の生き方を体得した原点が体育会時代。いつ誰に教わったかよくわからないが、気づくと自然に身に付き、自然と後輩に教えていたような気がする。そしてこのリズムは現在のビジネスシーンにおいても変わらず私の体を動かす。現在の仕事において、プロとしてイチロー選手に負けない自信があるし、そこそこだわり、努力している。その際の打ち手やポリシシーは体育会時代に培ったものがある。

ダイヤモンドの原石はダイヤモンドで磨く

人は人でしか研げない

一番純粹に切磋琢磨できたのが体育会時代

その仲間 (先輩・同期・後輩) と、その仲間の想いと

これからも関わり続けお互いを研ぎ高め合いたい

体育会バドミントン部万歳!

### 稲垣 翔悟

早稲田と慶應が一年に一度会すこの伝統ある早慶バドミントン定期戦が、今年もまた無事例年通り開催されることを嬉しく思うとともに名勝負が展開されることを非常に期待しております。

早慶戦と違って最初に思い出し出されるのは、リーグ戦やインカレとは違ったその独特な雰囲気、盛り上がり、慶應の諸君と試合上での交流です。去年の最後に行われた主将同士のシングルスは特に今でも鮮明に思い出されます。もちろん勝利を目指して試合を行っていたわけですが、ただ勝つこと、それだけでなく、早慶戦の中には他の試合で感じることのできない「何か」があったと思うのです。また、レギュラーとレギュラーでないものと一緒に団体戦を戦い、ともに勝利のために奮闘することによってチームにより一層の結束が生まれました。

昨年の早慶戦は東日本インカレ、秋季リーグ戦、インカレのあとに開催されて非常に慌しい中の試合ではありましたが、この早慶戦での勝利が次に続く新人戦や次年度の数多くの大会へのステップになったように思われます。早稲田・慶應両校の後輩諸君には実力を遺憾なく発揮し、また次につながるプレーを披露してもらいたいと思います。

そして、試合後の「酒」においでももちろん同様です。早慶の交流を深め、かつお互いに負けずに十分に飲み合ってください。

最後になりましたが、今大会を運営なさる方々に感謝し、すばらしい大会になるように御健闘をお祈り申し上げます。

WASEDA

早慶戦  
に  
せて  
寄

KEIO

早稲田  
源兵衛  
3232  
六六三五

人ぞ知る早稲田の  
名物源兵衛の  
味  
三ノ木の味

慶應義塾大学 平成16年卒（前年度主将）

## 落合 惇

伝統ある早慶バドミントン定期戦が今年も開催されることを心よりお喜び申し上げます。  
昨年度の早慶戦を機会に引退となり、一年が経つ。もはや、自分が学生時代にバドミントンをやっていたという実感もあまりない。もう二度と真剣にバドミントンをする事はないだろう。また、いつまでもそんなものにしがみ付いているのもみつともないと感じている。

一年次、私は客席から試合を見ていた。当時、私は部を離れており、折角だし、同期の試合でも応援しようかと思いい、早慶戦を見に行った。しかし、その主将戦で、高校の先輩である三壁先輩が早稲田相手に食らい付いていく姿を目の当たりにし、自分が何か大事なものを失くしたような喪失感に包まれた。そして、自分もこの場で戦いたいと思いい、部に戻ろうと決意した記憶がある。しかし残念ながらも拘らず、ただ漠然と時間を過ごしてしまっただけの感がある。その事に後悔はないが、自分についてきてくれた当時の部員に対してだけは申し訳ない気もしている。

反論する方も多いとは思いますが、早慶戦はOBの為ではなく、現役の為のものであると私は思う。現役が主役であるのだから、現役諸君は徹底的に伝統などは気にせず、自分自身の為に、やりたいようにやればいいのではないかと思う。普段の部としての活動に関しても同様である。周囲の雑音はあまりに大きいかもしれないが、自分が正しいと信じることに邁進していいてもらいたい。（バドミントンに関しては）すでに時代の過ぎたOBの一人として隅っこで応援しています。



「歴史と伝統」!! 手作りの店  
部員会に! 其の他のパーティーに!

# 山 食

慶應義塾三田キャンパス内  
TEL 03(3453)5971



今年も早慶バドミントン定期戦を迎えることになりました。本年で52回を数えるこの歴史ある大会に主将として出場できることに最高の名誉を感じるとともに主将として我が部の勝利をもたさなければならぬという責任感を強く感じること第であります。

さて、我が早稲田大学バドミントン部は、今年の春季リーグ戦では男子は1部5位と十分な成績を収めることができず、女子は1部2位という成績でありました。男女共に春季リーグよりも良い成績を挙げられるべく、厳しい練習を積み、秋のシーズンに向けて体力的にも精神的にも技術的にも確実に進歩したものと確信しております。この伝統ある早慶戦において勝利を収め、さらなる目標に進んでいきたいと思っております。

慶応の諸君、お互いに日ごろの練習の成果を十分に発揮し、正々堂々と個々の納得のいくプレーして、この伝統ある早慶戦にふさわしい最高の試合をしようではないか。

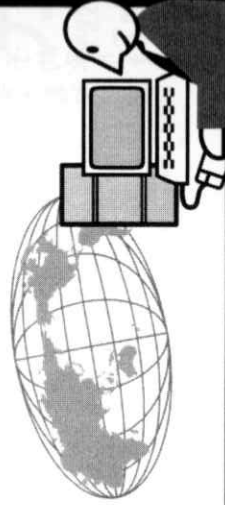
最後になりましたが、常日頃から応援激励してくださっているOB・OGの皆様、に厚く御礼申し上げます。第52回早慶バドミントン定期戦が無事に開催されることを願って、主将抱負とさせていただきます。

## WASEDA KEIO

世界の中心で

勝利を叫ぶ!!

がんばれ早稲田!



営業支援システムのエキスパート



ESPA

株式会社エスパ

〒130-0026  
東京都墨田区両国 3-21-16 両国中屋ビル8F  
TEL 03-5624-7231 FAX 03-5624-7232  
URL <http://www.e-space.ne.jp/espa/>  
ナレッジポータル構築システム【InfoStep】  
URL <http://www.infostep.net>

代表取締役 細村悦子 (S60年度卒)

昨年の戦いから早くも一年が経ち、今年も再び早慶バドミントン定期戦の季節となりました。副将の松下と私にとっては、今回の定期戦が、現役選手として最後の定期戦となります。そういう意味から、今回の定期戦にかける思いは、非常に強いものとなっております。

現在、我が部は、過去の栄光に比べますと、「低迷期」にあると言わざるを得ない状況にあるのかもしれない。単に、バドミントンの実力だけをとってみると、確かに、現在の我が部は低迷期にあります。しかし、部員ひとりひとりの「バドミントンが好きだ」という気持ち、そしてこの定期戦へのモチベーションは、決して低迷しておりません。今回の定期戦では、「慶應バドミントン部は、まだ死んでいない」という事実を、出場選手全員が証明してくれると私は信じております。

早稲田の皆さん、お互いに全力を尽くし合い、10年後、20年後のある日、ふとした瞬間に、今日の定期戦のことを思い出した時でも、胸の鼓動が高鳴ってしまうような、印象に残る定期戦にしようではありませんか。

最後に、今年、毎年、応援激励して頂いている両校OB・OGの皆様と、今回の定期戦の成功の為に何ヶ月も前から準備に奔走して下さった両校の主務および準備委員の方々に、厚く御礼を申し上げます。

## KEIO WASEDA

### スバゲッティ&ハンバーグ レストランマリーニ



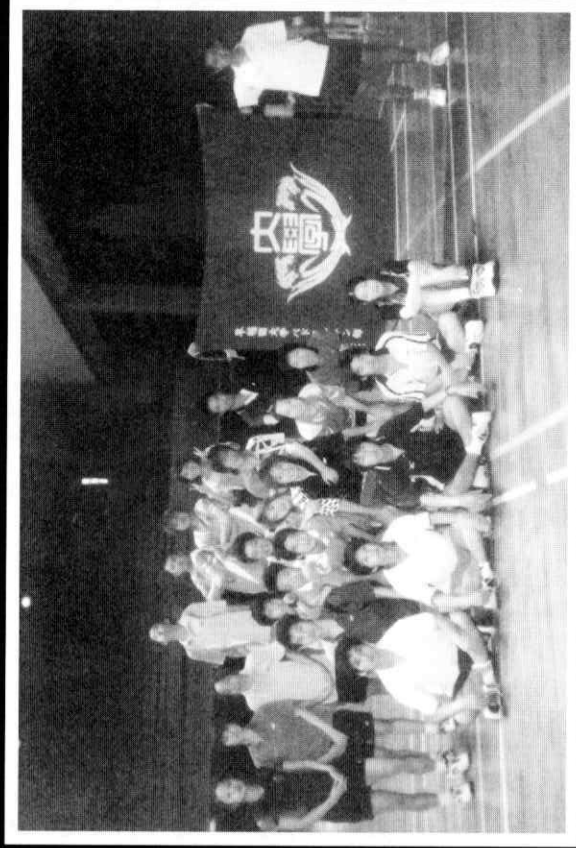
AM.10:00～PM.8:30

定休日 日曜・祝日

横浜市港北区日吉2-2-10

TEL045-563-9870

# WASEDA



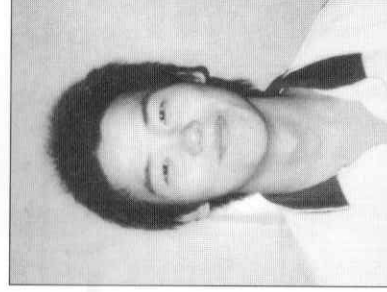
主将 槇野 貴行  
人科4  
常総学院

チームの柱である彼。華奢な体で、チームをしっかり支えている！

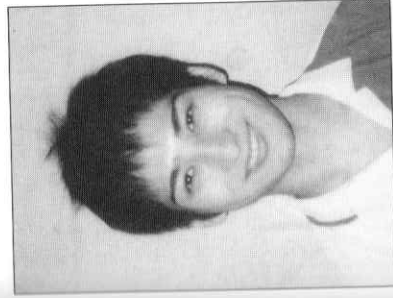


副将 藤巻 光喜  
社学4  
静岡星陵

部内一の負けず嫌いの精神を持ち、バドでもTVゲームでも負けることを許さない。



主務 川合 光  
教育4 国学院久我山



長戸 亮祐  
政経4 高知学芸



その頭脳が生み出す様々なフエイント。それらは果してどこまで通用するのか!?

暖かい眼差しでチームを見守る彼。リーグの応援も人一倍だ! 「ガンバデー!」

橋本 明奈  
人科4 埼玉栄



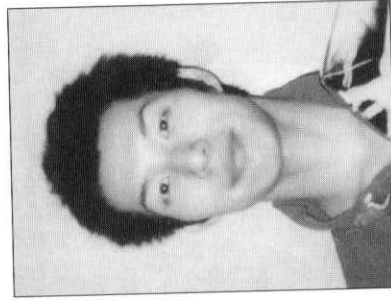
「チームの本当の主将ではないか?」と噂される彼女。榎野氏もタジタジである。

佐藤 孝一  
社学3 関東第一



愛するモノは「早稲田」「清原」と「北斗の拳」という熱き彼。今日も早稲田の清原として大暴れだ! 「ケーン!」

桂 秀典  
社学3 八代東



早稲田一の高さを持つ彼。必殺エペレストスマッシュは誰にも止められない!

広岡 まり香  
人科3 埼玉栄



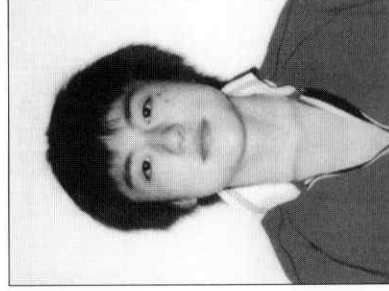
小ささが売りの彼女。その小ささと動きの速さでたまたにコートから見えなくなるらしい…。

副務  
高草木裕子  
社学3  
桐生商業



数少ないサウス  
ポールの一人であ  
る彼女。必殺ク  
ロスマアイヤー  
は炸裂するか!?

菅野 俊助  
スポ2  
帝京安積



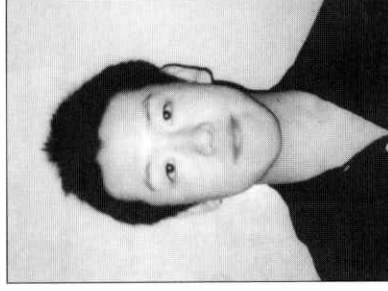
秋リーグでチキ  
ンからヒーロー  
へと進化したよ  
彼。髪の毛のよ  
うにまっすぐ育  
つのだらうか。

酒井 宏治  
社学2  
関東第一



早稲田の小悪魔  
的ポジションが  
定着した彼。ク  
ールに見えるが  
オチャメな一面  
もある。

芳賀 涼  
スポ2  
仙台第三



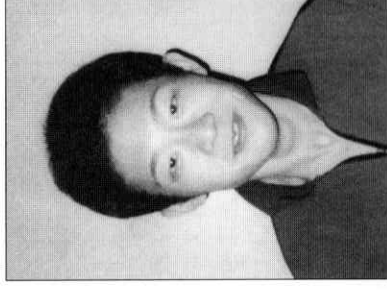
大物喰いで有名  
な彼。しでかす  
事の大きさと顔  
の大きさは比例  
しているのだら  
うか? ってね。

長谷部 悠  
人科2  
実践学園



GLAYをこよな  
く愛する彼。力  
ラオケでは、中  
居君状態でも歌  
い続けている。

石谷 育司  
政経2 敦賀



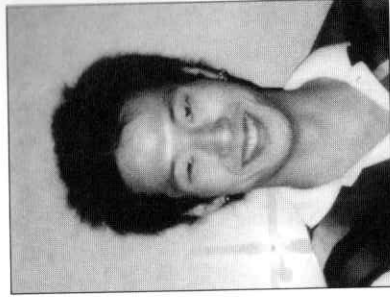
ミスチルをこよ  
なく愛する彼。  
語らせたら延々  
と語り続ける。

津野 友也  
スポ2  
高知学芸



シングルスでも、ある意味ダブルスをやっている彼。いつも見えない誰かと喋っている。

岩崎 良彦  
政経2  
早大学院



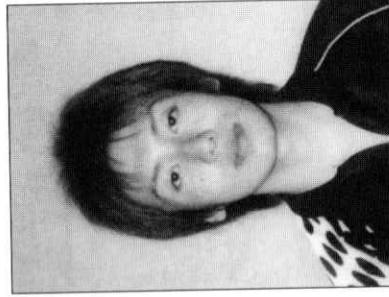
心眼を持つ彼。でなければ目を閉じたままバドミントンができるわけがない。

小瀬 俊介  
理工2 斐太



早稲田のマスクオットのキャラ。彼を愛さない人間などいないだろう。その名は「ピコタン」…。

山口 翔  
理工2  
盛岡第一



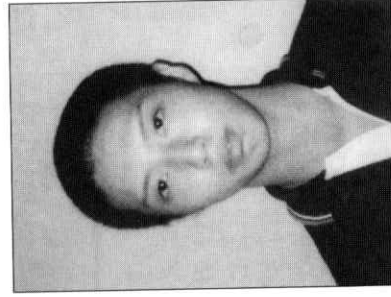
みんなのヒーロー、ロククマン。バドミントン界のロククマンになれるだろうか!?

清水 陽子  
スポ2  
常総学院



常に笑いが絶えない茨城っ娘。どんな会話も笑うことで一刀両断してしまおう。

日下 直人  
スポ1  
高松第一



ミスチルを語らせると面倒臭い彼。シュールな笑いを提供してくれるかもしれない。



高木 博貴  
社会学1  
桐生商業

日本人離れして  
いる彼。別に顔  
がというわけで  
は…。



金子 直弘  
政経1  
早大本庄

誰よりもガッツ  
ポーズが激しい  
彼。寝ている時  
の彼の目も激し  
い。



金森 裕子  
スポ1  
静岡星陵

天然ミラクルっ  
娘の彼女。天然  
はケガをしない  
程度にね。



木村 咲絵  
スポ1  
金沢向阳

自分を「浜崎あ  
ゆみ」と信じて  
やまない彼女。  
勘違いも程々に  
ね。



平山 優  
社会学1  
聖ウルスラ

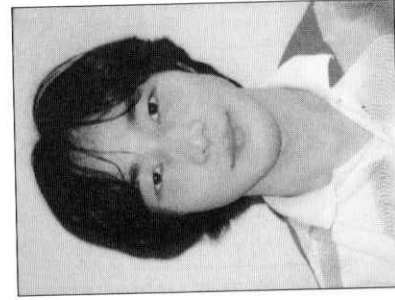
卓球の愛ちゃん  
に対し、バドの  
優ちゃんと言わ  
れることも。バ  
ドの悠ちゃん  
と間違われないよ  
うにね。

# KEIO



主将 達循  
吉岡 環  
境4 渋谷教育学園幕張

本年度の我が部の主将で、チームの大黒柱。松下副将とともに今年も北海道の夜を闊歩する。



副将 光旗  
松下 長  
理4 崎東

チームで一番おでこが広い彼。最近は一切髪を再び伸ばさそうかどうか考え中だ。そんな彼だからプレー中は髪とおでこに注目。

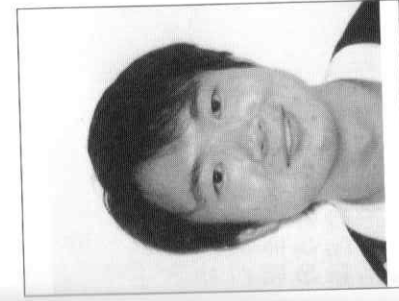




主務  
坂根 法3

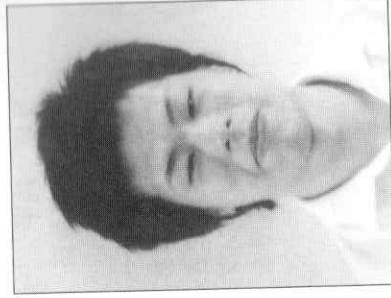
洋介  
公文国際学園

長所、年下に優しい。短所、年下にやさしい。そんな彼だから女子高の練習でも精が出るし、たくさん飛んでる。



森 祥広  
商3 半田

最近復帰したけど、辞める前よりパワーアップしてるのはどうして?きつて陰で努力してははずだ。



本出 奈月  
環境3  
金沢向陽

最近復帰した彼女。いまやチーム内でモテモテ。1年生にだって、すごい先輩がいる。



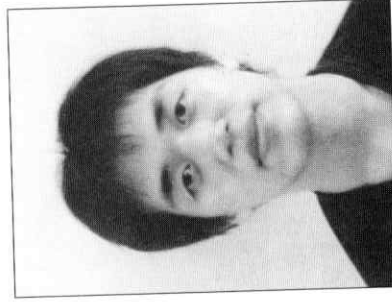
小粥 貴善  
理2 滝

ついにいまだで、髪の毛並みがゴールデンレトリバーだった彼だが、柄の悪さには拍車がかかり、グラサン、草履で日吉の駅裏を徘徊する。



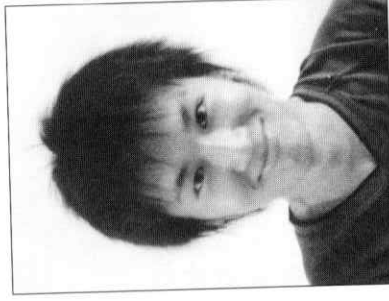
副務  
広田 崇  
理2 東北学院

遂に部内には自分と同じ年の人がいなくなり、一層さびしさを増したのだが、教祖との進展が楽しみだ。

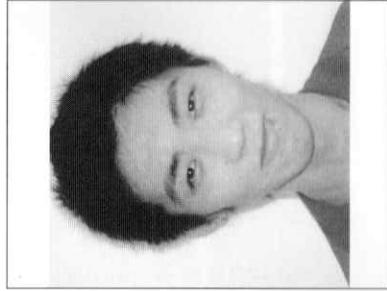


小池 徹  
経2 東海

名古屋をつくったのはK池だと勝手に部員に思われているが、そのくびれとキープエートなヒップで後輩のN村を魅了する。

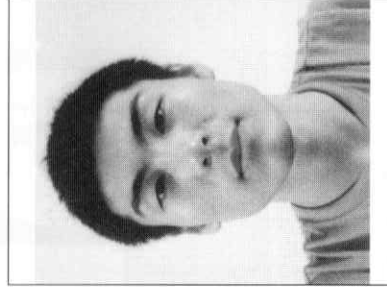


手塚 純平  
法1 慶應義塾



胸長短足がブームな彼。そのあまりの足の太さにハーフパンツを破いた経歴を持つ。

吉永 裕貴  
法1 東葛飾



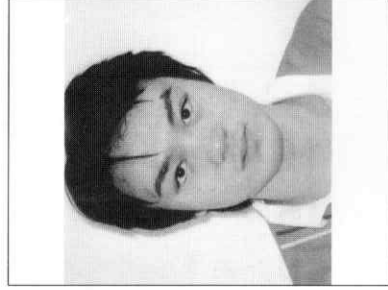
今年の一年の中でも最も真面目すぎで迂闊なことを言うてしまうので冗談もほとんどにしよう。

坂根 宏志  
理1 公文国際学園



記憶に依れば、彼の今年の目標は、「兄のようにはなりたくありません」。その目標がどこまで達成できるかわからないが今のところは100%だ。

中村 翔一  
環境1 東海



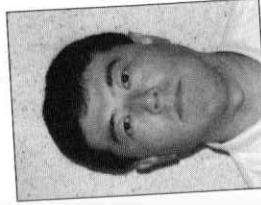
同校の先輩K池を心底愛する彼。粗相は今年一年の中で最も多いが、独特の個性で部を盛り上げている。

高橋 明子  
看護1 慶應義塾女子



遂に入った慶応義塾女子高卒女子部員。熱心で努力家。しかし都道府県がいくつあるのかはわからない？

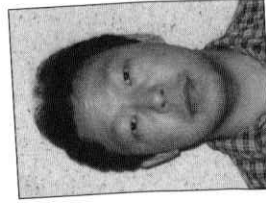
監督 季孝  
Toshitaka Saotome



昭和60年理工学部  
桐朋学園（東京）

“熱く”部活に情熱を注ぎ、学生よりも謳歌する新監督。小泉信三先生の青春時代を『練習は不可能にする』を信条に慶應復活に全力を尽くす。

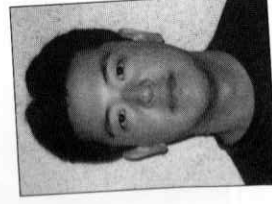
ヘッドコーチ 兼  
上級生担当コーチ  
茂木 一秀  
Kazuhide Motegi



平成4年理工学部  
中大附属（東京）

現役時代は“粘り”を身上とするとするダブルスプレイヤー。早慶戦では格上の選手を相手に大金星を上げた。練習への取組姿勢には人一倍厳しい鬼コーチ。

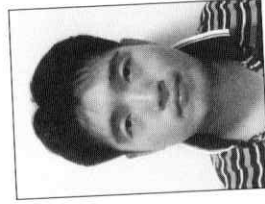
下級生 兼  
女子担当コーチ  
巽 弘樹  
Hiroki Tatsumi



平成6年経済学部  
慶應義塾（神奈川）

流石に学生時代のようにはいかないが“華麗”なシャトル捌きは未だ健在である。甘いマスをクに似合わぬ鋭い指摘で現役達を唸らせる理論派コーチ。

上級生担当コーチ  
川野 武久  
Takehisa Kawano



平成10年総合政策  
慶應義塾（神奈川）

冷静な“分析力”をも併せ持つ頭脳派熱血コーチ。春合宿での熱のこもったマンツーマンの指導は、4年生が今春大きく飛躍するきっかけとなった。

下級生 兼  
女子担当コーチ  
岩部 直子  
Naoko Iwabe



平成13年総合政策  
園田学園（兵庫）

塾バド部62年の歴史の中で唯一の女子主将。天才派だが“努力”も惜しまず、体育会主催コーチングセミナーに通い指導者としても大きく成長した。

# MEMBER

慶應義塾高等学校メンバー



部長 将務 務員  
部副主 副主 副部

遠藤 宇前 浅村 佐高 野水 石岡 川高 高谷 山坂  
藤美 田倉 上木 崎地 野岡 田原 木橋 田井  
耕賢 康哲 俊健 修哲 陽昌 太健 航圭 智

一徹 志之 史之 司平 也平 康郎 太慧 至亮 洋

出身中学	尾山台中学校	学年	3年
	すすき野中学校		3年
	慶應義塾普通部		3年
	法政第二中学校		3年
	初雁中学校		3年
	横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校		3年
	慶應義塾普通部		3年
	板橋第一中学校		2年
	原山中学校		2年
	横浜国立大学附属横浜中学校		2年
	高陵中学校		2年
	領家中学校		2年
	岩戸中学校		2年
	池尻中学校		2年
	原山中学校		1年

## 西澤和希

昨年の熱戦から早くも一年が経ち、今年で第52回目となる伝統ある早慶バドミントン定期戦を迎えることになりました。この伝統ある大会に参加できること部員一同、大変うれしく、また誇りに思います。

昨年は、大学生やOB・OGの方々とは別の日程で行われ、非常に残念でしたが、今年は一緒にできることとなりうれしく思っております。一昨年、昨年と惜敗し、大変惜しい思いをいたしました。この一年間、早稲田に再び勝利をもたらすという目標を掲げ、さらなるレベルアップを目指し、部員ひとりひとりが高い向上心を持って、日々の練習を取り組んできました。

公式戦では、団体、個人共に納得のいく結果を残すことができず、大変惜しい思いをし、また強豪校との力の差を思い知らされることとなりました。しかし、その差は少しずつではありますが、一步一步確実に縮まってきたと思っています。

この早慶戦で引退を迎える我々三年生は、今まで練習で積み上げてきた成果を十分に発揮し、勝利で高校でのバドミントン生活に有終の美を飾りたいと思います。

最後になりますが、塾校バドミントン部のみなさん、互いにこれまでの成果を十分に発揮し、高校三年間のバドミントン生活の締めくくりとなる早慶戦が思い出に残るよう、素晴らしい試合をしましょう。

WASEDA

主将抱負

KEIO

## 前田賢志

今年は例年のない酷暑。この8月に慶早バドミントン定期戦を迎えることができました。高校の新チーム発足の都合上、今回も大学生やOB・OGの方々とは別々の日程になってしまい残念ですが、この昭和28年以来的伝統ある大会への参加を部員一同誇りに思い、昨年のような熱い戦いを繰り広げたいと思っております。今年の公式戦では満足の行く結果は残せず他校とのレベルの差を感じさせられました。この夏には、3年生は現役最後となる慶早戦に勝利すること、1・2年生は県大会に進出することを目標とし、合宿等日々の練習に励んできました。その結果、去年の新体制発足時と比べても部員全体が着実にレベルアップし、試合を追うごとに勝利の可能性を感じるようになりました。

この慶早戦で高校のバドミントン生活に終止符を打つ3年生は、最後の晴れ舞台で2年間と半年で培ってきたものを出しきりたいと思っております。最後になりましたが、われわれは正々堂々と戦い、最後まで勝利に向かってシャトルを追いかけられることを誓います。そして早稲田の皆さん、お互いに有終の美を飾るため、また高校での良き思い出になるように精一杯頑張りました。